

教育目標 心豊かに充実した生活を送ることのできる子どもの育成 ～「自ら学ぶ力」「自ら律する力」を育成する～	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 本園の豊かな自然環境を子どもの育ちにつなげるよう、研究テーマに据えて取り組んだ。ICTの活用、自然学習ボランティアとの連携など、今年度の新たな試みが、子どもの探究心を育て深めるために有効であった。子どもたちが教師や友達、保護者、地域の方など身近な様々な人との温かいつながりをもちながら対話を重ねていくことで、思考を深める姿につながっていった。そのような姿が自ら学ぶ力となったと思われる。また、友達とつながり思いや考えを伝えあい、様々な課題を解決していく過程では、自律する力も育っていったと考える。 次年度は、園内環境を充実させ、子どもたちがより主体的、意欲的に環境に関わる姿となるようにしていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・今年度も、教育研究の成果が外部の団体に評価されたことは大きい。質の高い教育を地域に広く伝わるように支援したいと思う。 ・学校に幼稚園通信を配布することはよかったと思う。 ・論文は素晴らしかった。社協だよりも、園の成果を掲載する予定である。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年12月24日	学校運営協議会
最終評価	令和4年3月15日	学校運営協議会

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組 ○エピソードや研究保育を通して子どもたちの姿を捉え、育ちに着目しながら協議をする。 ○昨年度に引き続き、園内の自然環境を生かした豊かな教育活動ができるよう、教材研究や環境構成について工夫する。 ○子どもの育ちを“資質・能力の3つの柱”の視点から見取っていく。 ○カリキュラムマネジメントの観点から、教育課程の編成、週案の作成・反省・評価によるPDCAサイクルを確立する。
（取組結果を検証する）各種指標 ○記録、事例研究による子どもの変容、週案の反省・評価、教育課程の見直し

○アンケート項目「子どもは、自分でしたい遊びを見つけて楽しんでいる」「子どもは、園内の自然環境を遊びに取り入れて楽しんでいる」

中間評価

各種指標結果

○今年度も「科学する心を育てる」論文を作成することになり、園内研究では、自然との関わりの中で、昨年度の成果を更に発展させるため、自然学習ボランティアとの連携という新たな取り組みを、子どもたちの育ちと関連させながら事例の分析ができた。

○アンケート項目、「子どもは自分からしたい遊びを見つけて夢中になって遊んでいる」については、各学年「そう思う」「大体そう思う」を合わせると95%以上、「幼稚園は自然環境を大切にし、保育に生かしている」については、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、各学年100%、高い数値であった。

自己評価

分析（成果と課題）

○教育活動に自然環境、特に季節柄、生き物や草花を保育に生かしていた。環境や教材を工夫してきたことで、子どもの人との関わる姿や思考する姿が見られた。

分析を踏まえた取組の改善

○様々な季節でも自然環境を保育に生かせるよう、工夫する必要がある。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○事例研究 ・ アンケート項目 ・ 週案の評価

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

○緊急事態宣言が発令されている中での教育活動や感染者が出て休園するなど大変であったろうが、これからも工夫しながら進めていってほしい。

○行事が制限されていることが、目立つのかもしれないが、教育で大切なことは伝えていってほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

・研究論文「科学する心を育てる」論文が評価されたことで、地域や保護者の関心がさらに高まった。連携している自然学習ボランティアには、定期的に来園して講演いただく機会を得られたことが、探究の継続となった。

・アンケート項目、「子どもは自分からしたい遊びを見つけて夢中になって遊んでいる」については、各学年「そう思う」「大体そう思う」を合わせると95%以上、「幼稚園は子どもが夢中になって遊び環境を整えたり援助したりしてる」は、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると100%、「幼稚園は自然環境を大切にし、保育に生かしている」については、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると、年長、年少とも100%と高い数値であった

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

・自然環境を生かした教育、研究については、アンケート結果からも高い評価が得られている。

・次年度は、さらなる環境の充実を図るとともに、一人一人の子どもの心の動き、育ちや発達を捉え、教員間での研究、研修、意見交換、情報共有の機会を大切にしていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

・園庭については、具体的な素材、材料、用具などを検討し、子どもが“おもしろそう”“やってみたい”と思えるような環境へと改善していきたい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・自然環境のさらなる充実が図れるよう、協力できることがあればしていきたい。 ・幼稚園教育についての積極的な発信をサポートできればと思う。
---------	---

（２）幼小連携・接続に関して

具体的な取組 ○ 近隣の小学校への保育公開、小学校の授業参観・研究授業の参観 ○ 保幼小連携会議への参加 ○ 読書ノート「親子で絵本！」の活用度を定期的に点検、把握、改善	
（取組結果を検証する）各種指標 ○保育公開の参加実績・小学校の授業参観、研究授業参観の参加回数 ○保幼小連携会議への参加回数と協議内容 ○交流事業の打ち合わせの実施や実践結果 ○アンケート項目「読書ノート“親子で絵本”は利用している」「親子での絵本の読み聞かせは大切であると感じる」 ○「親子で絵本！」の活用実績	

中間評価

各種指標結果 ○昨年度に続き今年度も新型コロナ感染防止対策により、校種間の参観ができない状況であった。 ○アンケート項目「親子での絵本の読み聞かせは大切だと思う。」については、「そう思う」「大体そう思う」を合わせると 100%になるが、「読書ノート“親子で絵本”は利用している」の項目は、年少は 67%，年長は 51%と低い数値である。	
自己評価	分析（成果と課題） ○教員間の連携や情報共有はしてきた。小学校より、自然学習ボランティアを紹介してもらい、教育活動に生かしてきている。 ○小学校 3 校に、幼稚園だより地域版配布の協力を求め児童全戸への配布を開始した。 ○読み聞かせは大切だと思うが、読書ノート「親子で絵本」の活用と結びついていない。読書ノートが活用できるよう、その意義を伝える機会が必要である。
	分析を踏まえた取組の改善 ○感染状況を見ながら可能なら懇談会などの機会に伝え、活用を促したい。 ○就学支援での連携を図る。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○実施されれば保幼小連携会議への参加、協議内容。 ○「親子で絵本！」の活用実績。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○今年度も「親子で絵本」の活用が課題である。やはり保護者にとっては手間なのであろう。もっと簡単な形式に変えることはできないのだろうか。

価	
---	--

最終評価

	〔中間評価時に設定した〕各種指標結果 ・感染拡大により，保幼小連携会議は開催されていないが，就学前の各学校との連絡会はそれぞれ開催できた。 ・小学校への幼稚園通信の配布は，園の教育を家庭や教職員にも発信できる機会となった。
自己評価	分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題 ・論文を園区の小学校教員へ届けたり，幼稚園通信を児童の各家庭，小学校教職員向けに配布したりすることで，学びに向かう力の幼稚園の育ちと小学校の学びの連続性として発信できることができた。小学校長からも幼稚園の学びについての感想もいただいた。 ・動画で幼小交流をしたことも，子どもたちにとっては小学生との出会いとなり有意義であった。年長児にとっては動画での交流は小学校への期待が膨らみ不安よりも楽しみにする気持ちがもてるようになった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・学びという視点での幼小連携をすることで，互いに共有しあえるように計画的に実施していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・感染拡大により，交流はしにくいですが，これからも取り組んでいってほしい。

（３）預かり保育に関して

具体的な取組 ○指導計画を見直し，安心・安定して預かり保育に参加し，色々な遊びを楽しめるよう配慮，工夫する。 ○教育時間内と預かり保育時間の子どもたちの姿を担当，担当教員で密に連絡し合いながら，担当教員の態勢を整えながら，子どもとのかかわり方を考え見直していく。
〔取組結果を検証する〕各種指標 ○預かり保育参加人数 ○預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。 ○アンケート項目「子どもは預かり保育に喜んで参加している」「子どもは預かり保育の遊びを楽しんでいる」「預かり保育は保護者にとって有効である」など

中間評価

自己評価	各種指標結果 ○昨年度は感染防止のため、新2号などに利用を制限することが一定あった。しかし今年度は年少組の保護者のリフレッシュ目的の利用が比較的多い。 ○水曜日も半数近くが弁当を持ってきて参加している。
	分析（成果と課題） ○利用数が昨年度より伸びていると感じる。有効に活用されているのではないか。
	分析を踏まえた取組の改善 ○日々、更新されている感染防止対策については、預かり保育教員と共有していく必要がある。 ○預かり保育時の活動内容と感染防止対策はその都度見直していきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○預かり保育参加人数 ○預かり保育の中での子どもの姿や教師のかかわり。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○リフレッシュ利用は16時までが多いと聞く。感染対策は大変だが、保護者にとっても必要なものであると思う。

最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・預かり保育の利用者は、前期より増加傾向である。特に新2号認定者が増えている。 ・子どもは前回参加した時の続きの遊びや、預かり保育ならではの玩具に喜んで取り組んでいる。 ・コロナ禍で、感染防止のため学年別にすることもあった。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・担任と担当教員の連携は、更に充実していく必要がある。 ・預かり保育の遊びについて、工夫をしていく必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善 ・預かり保育の遊びや教材、環境構成について改善していく。 ・担任と担当教員の連携を密にする。降園時の伝達について習慣化する。
	学校関係者による意見・支援策 ・就労される保護者が増えてきているという。大変だが、今の社会情勢では預かり保育は必要なものなのであろう。

（４）子育ての支援に関して

具体的な取組 ・未就園児クラスの施設利用の方法を変更し、回数を増やし、充実を図る。 ・地域の施設と具体的にどのような連携ができるかについて話し合う機会をもつ。
（取組結果を検証する）各種指標

- 子育て支援の取り組みの回数や参加人数，教育相談件数。
- 保護者の意見。

中間評価

各種指標結果

- たまご組（0～2歳児）ひよこ組（3歳児）それぞれ、日数を増やす試みをした。
- ひよこ組は6月末より園内の保育室に移動した。そのことにより開催日数を増やすことができる。しかし実際は緊急事態宣言発令や延長により予定通りにはいかず日数が減る事態となった。
- 2歳児の登録者は昨年度より微増である。

自己評価

分析（成果と課題）

- 感染状況を見ながらではあるが、日数を増やして充実させていく。

分析を踏まえた取組の改善

- 感染状況に左右されるが、感染防止対策を優先しつつ日数を増やし3歳児午後保育やプレひよこ組を実施していく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- 子育て支援の取り組みの回数や登録者数。
- 保護者の意見。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 社会福祉協議会の子育て支援への参加が再開すると聞いた。
- 地域として協力していきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・3歳児のひよこ組は、週4日で感染が落ち着いた頃から弁当日を増やしたが、すぐに感染拡大状況となり午前保育となった。
- ・2歳児のプレひよこ組を昨年度よりも前倒しで実施できて、2歳児の子育て支援については回数が増えることとなり充実で来ていた。
- ・しかし、感染拡大で計画したようには開催できなかった。

自己評価

分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題

- ・感染拡大状況のより左右されるが、できるだけ実施回数を増やしたい。
- ・感染拡大で休止していた期間が長いので、次年度はたまご組の実施について、地域での積極的なPRが必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・次年度はひよこ組にフリールームを利用できればさらに充実できていると考えている。
- ・たまご組，プレひよこ組の早期実施に取り組みたい。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・社会福祉協議会の子育て相談を2学期には再開できたが、3学期はまた感染拡大状況によって中止していた。次年度は、感染が落ち着きもっと協力できれば良いと思っている。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組

- ・地域の自然を生かした取組を継続するとともに、学校運営協議会「どんぐりーず」、PTA、おやじの会と共に充実した保育と連携し、地域と連携した教育の中で育まれる資質・能力について発信する。
- ・岩倉地域自然アドバイザーや畑の先生などを活用し、子どもの育ちや研究に生かす。

（取組結果を検証する）各種指標

- 地域との交流の内容や回数。運営協議会理事、PTA、地域の方の意見
- 岩倉地域自然アドバイザーの活用による子どもの変容、研究の充実
- アンケート項目「学校運営協議会　どんぐりーず」と参画する行事は子どもたちにとって良い経験となっている」「学校運営協議会　どんぐりーず」に子どもたちも親しみをもっている。」など

中間評価

各種指標結果

- PTAやおやじの会は協力しようと意欲的であったが、予定していた活動が、緊急事態宣言により、できなかった。
- 岩倉自然学習アドバイザーの先生と、子どもたちは喜んで関わっている。教員も岩倉の自然の豊かさについて知る機会となった。

自己評価

分析（成果と課題）

- 岩倉自然学習アドバイザーにより、貴重な教材を提供していただいたり、園外保育に同行していただいたりした。保育や研究に生かすことができている。

分析を踏まえた取組の改善

- 岩倉自然学習ボランティアの方の教材や保育での関わりは、子どもたちの教育活動に大変生かすことができた。今後も定期的に関わっていただき充実させていきたい。
- PTAやおやじの会、学校運営協議会は、2学期の園行事に関わっていただく機会がある。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- 岩倉自然学習アドバイザーの方は、引き続き教育、研究に関わっていただき、教育、環境の充実を図る。
- 今後を見据えPTAやおやじの会の活動が無理なくできるよう見直す。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- 感染状況は落ち着いている。しかし、従来通りではなく、無理なくできるように考えていく必要がある。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・岩倉自然学習ボランティアの方には、月1回“自然の日”を設定いただき、岩倉の自然について子どもたちにプレゼンをしていただく機会をつくることができ、子どもの興味関心を引き出し充実することができた。
- ・PTAやおやじの会は、活動できる機会が限られていた。

自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・PTA活動、おやじの会は、感染拡大状況により、活躍していただく機会がかなり少なくなった。 ・学校運営協議会と連携した行事の実施ができた。 ・幼稚園通信は、地域への園の教育の発信となり効果的であった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・自然学習ボランティアの方との連携によって、園内環境を再構成していきたい。 ・今年度初めて試みた幼稚園通信も、できるだけ多く発行していきたい。 ・PTA活動、おやじの会の保護者は意欲的であるので、活躍していただける機会をつくれればと思う。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・幼稚園通信はよかったので、できるだけ定期的に発行していただきたい。 ・学校運営協議会と園が連携した行事が、次年度はもう少しできればと思う。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標 ○教職員の業務内容・勤務時間を意識し、改善点を明らかにし、校務支援員を有効活用しながら、働き方改革を推進する。
具体的な取組 ○校務支援員が有効に活用できるように見通しをもって保育計画をする。 ○会議の精選・効率化、ペーパーレス化、行事の内容や業務の分担の見直しと効率化、超過勤務の短縮。 ○電話対応時間を１８時までとする。 ○水曜日をノー残業デーに設定し、実現する。
（取組結果を検証する）各種指標 ・校務支援員の活用により改善できた業務内容や教職員の勤務時間の実態把握。年休取得率。

中間評価

	各種指標結果 ○超過勤務時間が昨年度の同月より各月減少している。 ○校務支援員による新学期準備で担任業務の軽減、教材や絵本の整理、用具の移動なども校務支援員に任せることができた。
自己評価	分析（成果と課題） ○校務支援員の活用は、大変有効である。依頼する業務を事前に選定することも昨年度よりスムーズになっている。 ○水曜日のノー残業デーが守られていない。
	分析を踏まえた取組の改善 ○校務支援員に依頼する業務の選別が計画的にできるようにしていき、超過勤務を減らす。 ○水曜日のノー残業デーをしっかりと意識づける。

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ○教員の超過勤務時間 ・ 年休取得 ・ 校務支援員の業務内容
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ○校務支援員という立場の方が昨年度より有効に活用できているようでよいのではないかと。何か力になれることがあればしていきたい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・教職員の働き方改革への意識は、今年度さらに向上し、超過勤務時間は昨年度よりも減少傾向にある。 ・校務支援員について計画的に有効活用ができ、教職員の業務内容の削減に奏功した。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・出張が減りリモート会議になったことで、園内業務にあたる時間が増加した。 ・今後さらに計画的効果的に校務支援員を有効活用していく必要がある。 ・ノー残業デーは、なかなか実施できていなかった。 分析を踏まえた取組の改善 ・校務支援員との連携による業務内容改善と超過勤務時間のさらなる削減。 ・ノー残業デーの推進。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・コロナで大変な中、業務は多いと思うが、働き方改革について引き続き取り組んでほしい。